

第94期 中間報告書

2023年4月1日~2023年9月30日

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線並びに金属繊維(ナスロン®)を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様並びにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードし続けています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

ここに、当社第94期中間期(第2四半期累計期間、2023年4月1日から2023年9月30日まで)の事業の概況につきましてご報告申しあげます。

2023年12月

代表取締役社長 利光 一浩



当社グループは2024年3月期を最終年度とする『中期経営計画(NSR23)』を策定しております。
 高機能・独自製品の機能・能力増強と持続的成長のための生産基盤の強化について引き続き推進するとともに、ESG(環境・社会・ガバナンス)とサステナビリティ(持続可能性)を経営の軸に織り込んだ内容となっています。

ビジョン

Micro&Fine Technologyを追求するなかで、
 未来の高機能・独自製品を生み出しつづける事を通して社会に貢献し、ESG経営の実践によってステンレス鋼線No.1カンパニーの地位を継続していく。

スローガン

日本精線リニューアル(NSR)継続推進と
 高機能・独自製品でサステナビリティに貢献
 NSR: **Nippon Seisen Renewal**
 高機能・独自製品の上方弾力確保・拡販と
 持続的成長のための生産基盤強化を目指す。

基本方針

1. 日本精線リニューアル計画の継続・推進
2. 新製品開発と新市場開拓でサステナブル社会に貢献
3. 水素を巡る新事業の探索
4. コーポレートガバナンスとコンプライアンスの充実

経営目標

連結ROS
 (経常利益/売上高)

10% 以上

連結ROA
 (経常利益/総資産)

10% 以上

連結ROE
 (純利益/株主資本)

8% 以上

連結配当性向
 (配当/税引後利益)

40% 程度

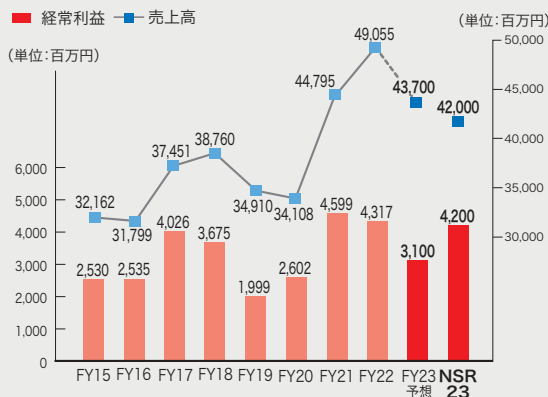
(連結)
 高機能・独自製品
 売上高比率

70% 以上

CO₂排出量
 削減率
 (2030年度目標)

2013年度比
▲30%

売上高・経常利益の推移(連結)



サステナビリティの取組み等の詳細は右記QRコードから「サステナビリティ報告書」をご覧ください。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



当第2四半期連結累計期間における世界経済は、高インフレが収束したものの緩やかな経済減速傾向がみられるほか、中国でも雇用環境悪化や不動産不況によって景気の減速が進んでいます。日本経済については、インバウンド需要や設備投資が底堅いものの、海外経済の減速や半導体市場の低迷の影響を反映し、景況感の先行きに対する不透明感が大きくなってきています。

このような事業環境の中で、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」という。）は2024年3月期を最終年度とする『中期経営計画（NSR23）』において、「日本精線リニューアル（NSR）継続推進と高機能・独自製品でサステナビリティに貢献」を中期スローガンとして掲げ、高機能・独自製品の販売に注力して企業価値向上に努めております。

結果として当第2四半期連結累計期間の売上高は、217億55百万円（前年同期比12.0%減）となりました。損益については、太陽光発電パネルなどの製造プロセスで使用される極細線に対する需要の強さは継続したものの、流通在庫の調整を受けたステンレス鋼線の販売量減少による操業度損増加や、これまで収益の牽引役だった半導体関連業界向け超精密ガスフィルター（NASclean®）の受注減少によって、減益を余儀なくされました。この結果、営業利益16億25百万円（同16.3%減）、経常利益17億42百万円（同14.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益12億21百万円（同13.7%減）となりました。

なお、中間配当につきましては、すでに公表しておりますとおり1株につき105円とさせていただきます。

事業部門別の経営成績は次のとおりです。

ステンレス鋼線部門

ステンレス鋼線においては、2022年度上半期の販売量はニッケル価格上昇を見込んだ駆け込み需要が発生し月当たり3,412トンと高水準の推移を維持するも、自動車用途や建材用途の荷動き鈍化が鮮明となり過剰在庫の調整が生じたことから下半期平均2,955トン（上半期比13.3%減）となり、さらに2023年度第2四半期連結累計期間も調整が長期化したため月当たり2,587トン（前年同期比24.2%減）となりました。一方、太陽光発電パネルの製造プロセスで使用されるスクリーン印刷向け極細線は、お客さまの細径化ニーズに応える高付加価値製品として好調な受注を確保しました。

なお、LMEニッケル価格については、2020年度第1四半期から右肩上がりの傾向となっていましたが、ウクライナ情勢の影響もあり2022年度の平均価格がポンド当たり11.63ドル（前期比平均に比してポンド当たり2.28ドル上昇）と急激に上昇しました。2023年度第2四半期は2023年7～9月の平均価格でポンド当たり9.23ドル（2023年4～6月平均に比してポンド当たり0.93ドル下落）と下降に転じました。

結果として、当第2四半期連結累計期間におけるステンレス鋼線全体の月平均販売数量は大幅に減少（前年同期比24.2%減）したものの、ニッケル価格高騰による販売単価上昇や極細線の販売増によって売上高186億23百万円（同8.6%減）と減少幅を低減することになりました。

海外現地法人であるTHAI SEISEN CO.,LTD.及び大同不銹鋼（大連）有限公司についても、ステンレス鋼線の販売数量が低迷し、減収となりました。

金属繊維部門

金属繊維においては、半導体関連業界向け超精密ガスフィルター（NASclean®）に対する需要が調整局面となりました。その背景には、DRAMやNAND型フラッシュメモリの価格低迷により半導体メーカーが設備投資を先送りしはじめたことが影響しています。2022年度下半期の月当たり売上高が3億82百万円と高水準の推移を維持するも、2023年度第1四半期は月当たり3億9百万円となり、さらに第2四半期も調整が継続したため2023年度第2四半期連結累計期間の月当たり売上高は2億98百万円（前年同期比30.8%減）となりました。

ナスロン®フィルターについては、ポリエステルフィルム用途の販売が減少したことに加え、ゼロコロナ政策転換による感染症急拡大によって経済活動に大きな制約を受けた耐素龍精密濾機（常熟）有限公司が低迷したため、2023年度第2四半期連結累計期間の月当たり売上高は2億23百万円（前年同

期比23.6%減）となりました。

結果として、当第2四半期連結累計期間における金属繊維部門の売上高は31億32百万円（前年同期比27.9%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。なお、セグメントごとの経営成績については、セグメント間の内部売上高又は振替高の相殺消去前の金額を記載しています。

■日本

主力のステンレス鋼線は極細線で好調な受注を確保するも、自動車用途や建材用途における流通在庫の調整長期化による販売低迷や、LMEニッケル価格の下落に伴う販売単価の減少が生じました。金属繊維は半導体製造装置に組み込まれる超精密ガスフィルター（NASclean®）が調整局面となり、売上高は195億63百万円（前年同期比11.0%減）、セグメント利益は16億4百万円（同4.9%減）となりました。

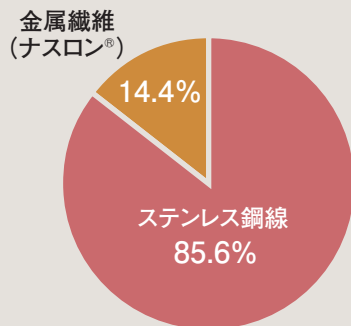
■タイ

ステンレス鋼線の販売数量は需要低迷・過剰在庫の調整から減少し、売上高は24億31百万円（前年同期比21.9%減）、セグメント利益は1百万円（同99.3%減）となりました。

■中国・韓国

ナスロン®フィルターの需要が低迷し、売上高は6億57百万円（前年同期比30.0%減）、セグメント利益は41百万円（同65.4%減）となりました。

■ 部門別売上構成比（連結） 94期中間



営業の概況

今後の見通しといたしましては、米中露や中東等での地政学リスクが資源価格高騰や先端半導体の輸出制限等の経済安全保障上の制約となることのほか、中国の不動産市場の調整等を発端とする景気の下振れリスク等、多くのリスクシナリオを認識しております。

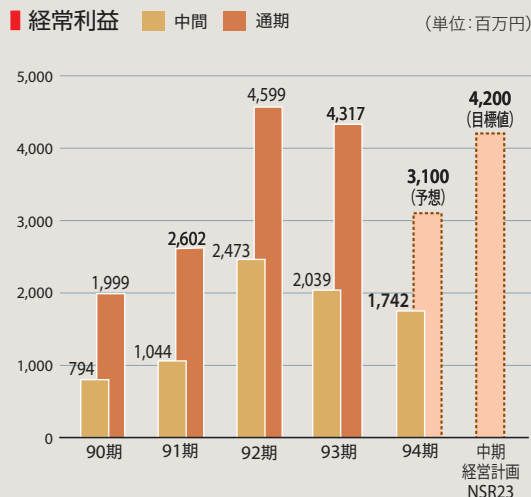
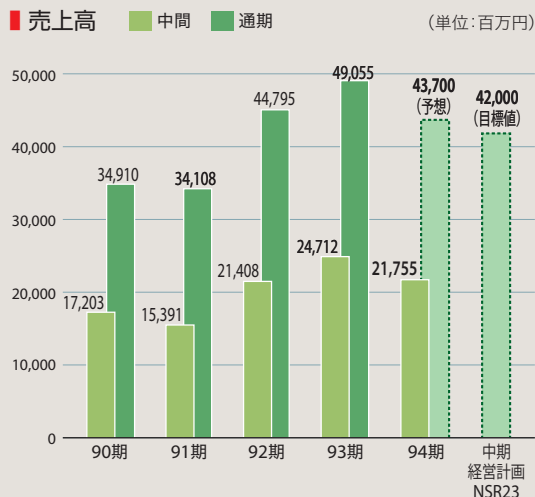
さらに当社グループの主力製品であるステンレス鋼線は、中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化による収益低下などの懸念があり、同様に、金属繊維(ナスロン®)も化合物繊維向け等の一般汎用製品については競争が激しくなっております。

このような経営環境を踏まえ、当社グループは2021年4月より『中期経営計画(NSR23)』(最終年度2024年3月期)をスタートさせ、「日本精線リニューアル(NSR)継続推進と高機能・独自製品でサ

テナビリティに貢献」を中期スローガンとして掲げ、高機能・独自製品の比率を一層高め、企業価値向上に努めております。NSR23の経営目標として連結経常利益42億円、連結売上高経常利益率(ROS)10%以上、連結総資産経常利益率(ROA)10%以上などに加え、2030年度CO₂排出量削減目標▲30%(2013年度比)を掲げESG経営を推進してまいります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では環境、エネルギー、5Gなどサステナビリティ成長分野に極細線、高強度ばね用材など当社グループの高機能・独自製品の拡販に努めるとともに、成長性のある海外マーケットを開拓してまいります。生産面においては、前中期計画から取り組んできました日本精線リニューアル計画(NSR)を継続推進し、

業績の推移(連結)



※1. 第92期の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。

高機能・独自製品の機能・能力増強と持続的成長のための生産基盤の強化を図ります。また、THAI SEISEN CO.,LTD.の機能を強化し、国内外の最適生産体制の構築を進めてまいります。

金属繊維部門においては、中国、韓国の現地法人の活用による海外市場への拡販、高精度化する需要に応える商品開発を進めるとともに、半導体関連市場の需要増に対し、超精密ガスフィルター(NASclean®)の安定したサプライチェーンの構築を進めてまいります。

サステナビリティ経営における課題としては、生産プロセスで排出されるCO₂や廃棄物の削減といった社会的な責務を意識し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。また、高機能・独自製品の安定提供を通じてサステナブル社会に貢献することも

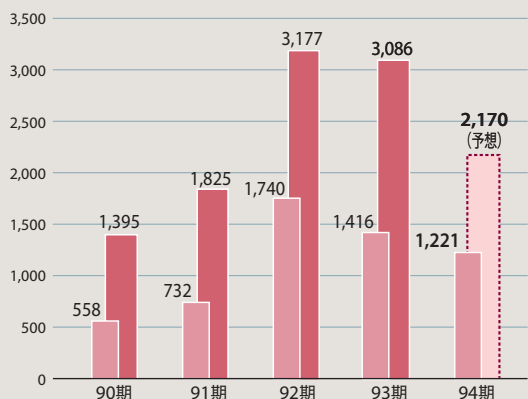
当社の責務と認識しております。さらには、将来の水素社会を展望した研究開発を進めるとともに、事業継続マネジメント(BCM)の再構築や働き方改革など、リスク管理やガバナンスなどの体制強化にも鋭意取り組んでまいります。

以上の諸施策を確実に実行することにより、収益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や高度化・多様化する顧客ニーズへの対応、サステナブル社会への貢献を通じ、『さらなる企業価値の向上』にグループ一丸となって取り組んでまいります。

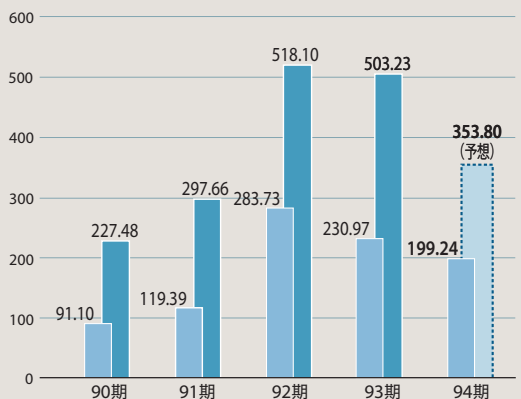
なお、2024年3月期の連結通期業績につきましては2023年10月27日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」の通りとなります。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

■ 当期純利益 (単位:百万円)



■ 1株当たり当期純利益 (単位:円)



2. 当社は、第93期より「株式給付信託(BBT)」を導入しており、1株当たり当期純利益の算定上、当該信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。

連結決算

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表

科目	期別	当第2四半期末	前第2四半期末	前期末
		(2023年9月30日現在)	(2022年9月30日現在)	(2023年3月31日現在)
資産の部				
流動資産		35,660	36,410	36,332
現金及び預金		14,325	15,302	14,657
受取手形及び売掛金		8,073	9,351	8,810
電子記録債権		1,697	939	1,340
商品及び製品		2,951	2,978	2,871
仕掛品		5,159	4,577	5,080
原材料及び貯蔵品		3,265	2,976	3,280
その他		186	285	291
固定資産		18,009	16,787	17,721
有形固定資産		15,801	14,677	15,601
建物及び構築物(純額)		5,425	5,253	5,380
機械装置及び運搬具(純額)		6,865	6,574	6,623
土地		1,654	1,645	1,646
リース資産(純額)		26	20	16
建設仮勘定		1,250	596	1,342
その他(純額)		579	586	590
無形固定資産		191	203	202
投資その他の資産		2,016	1,906	1,918
資産合計		53,669	53,197	54,054

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期末	前第2四半期末	前期末
		(2023年9月30日現在)	(2022年9月30日現在)	(2023年3月31日現在)
負債の部				
流動負債		9,694	11,551	11,012
支払手形及び買掛金		6,884	8,838	7,660
短期借入金		259	272	315
未払法人税等		629	705	540
賞与引当金		741	741	703
役員賞与引当金		—	—	33
その他		1,179	994	1,759
固定負債		5,471	5,035	5,436
長期借入金		257	—	338
役員株式給付引当金		52	14	33
退職給付に係る負債		4,841	4,727	4,739
環境対策引当金		171	137	172
その他		148	156	153
負債合計		15,166	16,587	16,448
純資産の部				
株主資本		36,933	35,340	36,359
資本金		5,000	5,000	5,000
資本剰余金		5,558	5,558	5,558
利益剰余金		26,774	25,181	26,201
自己株式		△398	△399	△400
その他の包括利益累計額		982	714	686
その他有価証券評価差額金		23	12	17
繰延ヘッジ損益		△1	△3	△0
為替換算調整勘定		1,037	789	765
退職給付に係る調整累計額		△77	△85	△95
非支配株主持分		586	556	559
純資産合計		38,503	36,610	37,605
負債純資産合計		53,669	53,197	54,054

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計) (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前期 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)
売上高		21,755	24,712	49,055
売上原価		18,400	21,023	41,429
売上総利益		3,354	3,689	7,625
販売費及び一般管理費		1,729	1,746	3,446
営業利益		1,625	1,942	4,179
営業外収益		135	112	205
営業外費用		18	15	67
経常利益		1,742	2,039	4,317
特別利益		1	2	3
税金等調整前四半期(当期)純利益		1,743	2,042	4,321
法人税、住民税及び事業税		552	622	1,213
法人税等調整額		△ 37	△ 22	△ 25
四半期(当期)純利益		1,228	1,441	3,133
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益		6	25	46
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益		1,221	1,416	3,086

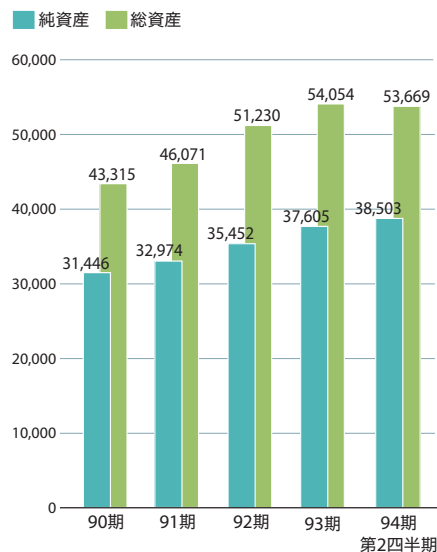
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計) (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前期 (2022年4月1日から 2023年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,923	1,264	1,861
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,607	△1,049	△1,781
財務活動によるキャッシュ・フロー		△798	△772	△1,046
現金及び現金同等物に係る換算差額		123	174	159
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△359	△383	△806
現金及び現金同等物の期首残高		14,122	14,928	14,928
現金及び現金同等物の四半期末又は期末残高		13,762	14,545	14,122

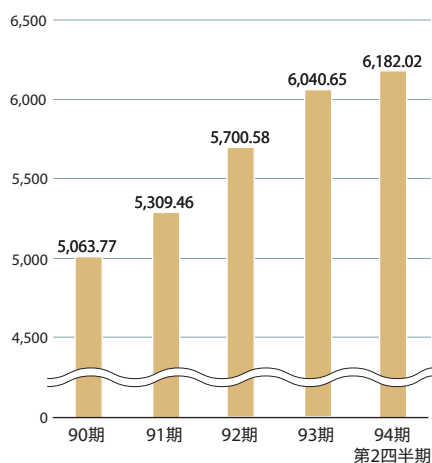
■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



会社の概況

(2023年9月30日現在)

会社概要

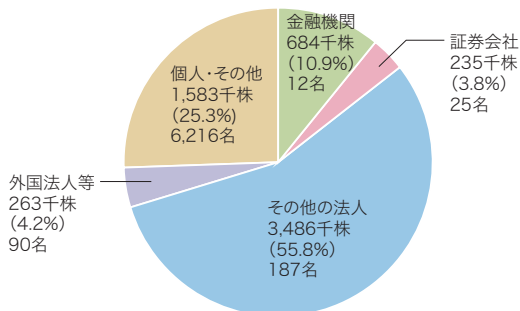
商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
設立 1951年6月30日
資本金 50億円
従業員数 606名
ホームページアドレス <https://www.n-seisen.co.jp/>

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン®)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

株式の状況

- 発行可能株式総数 25,000,000株
- 発行済株式の総数 6,253,038株
- 当第2四半期末株主数 6,530名
- 所有者別株式分布状況



当社グループの主要な事業所

■当社

本 社	大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支 店	大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)・名古屋(名古屋市中区)
工 場	枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)

■連結対象子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO.,LTD.	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司	80%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連
韓国ナスロン株式会社	100%	韓国ソウル
日精テクノ株式会社	100%	大阪府枚方市

■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	3,117 ^{千株}	50.37%
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	413	6.68
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	132	2.14
前尾吉信	129	2.08
野村證券株式会社自己振替口	73	1.17
株式会社SBI証券	68	1.10
特殊発條興業株式会社	66	1.07
A S A D A 株式会社	60	0.96
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口4)	55	0.89
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口E)	55	0.89

(注) 1. 持株比率は自己株式(64,567株)を控除して計算しております。
2. 表示単位未満を切り捨てて表示しております。

役員 (2023年9月30日現在)

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

取締役会長	新	貝	元
代表取締役社長	利	光	一 浩
*取締役	高	橋	一 朗
取締役	滝	沢	正 明
取締役	内	山	由 紀
取締役	今	泉	泰 彦
取締役	高	宮	伸
常勤監査役	若	松	壮 一
常勤監査役	近	藤	雅 昭
監査役	長	谷	川 正
監査役	岩	谷	直 樹

執行役員

常務執行役員	小	林	真
常務執行役員	高	橋	一 朗
常務執行役員	越	智	隆 裕
常務執行役員	大	塚	雅 彦
執行役員	谷	口	政 広
執行役員	山	田	和 仁
執行役員	松	田	潤
執行役員	木	寅	潤 一
執行役員	佐	々	木 俊 明
執行役員	鮑	浦	常 夫

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日
剰余金配当の基準日	期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載
証券コード	5659
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	●電話 0120-288-324(フリーダイヤル) (土・日・祝日を除く 9:00~17:00) ●インターネット https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html ●電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324(フリーダイヤル) (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)

NIPPON SEISEN CO., LTD.

